

自己血の細菌汚染



岸野 光司 高瀬 明美 室井 一男

自治医科大学附属病院輸血・細胞移植部

キーワード：自己血，細菌汚染

41歳女性。前置胎盤のため自己血を貯血した。3回目の自己血貯血 (day 1) の朝の体温 36.6°C (平熱 37.0°C 以下)，白血球 7,500/ μ l，CRP 0.18mg/dl。貯血前 (14時) の体温 37.5°C だが症状なく，200ml の自己血を貯血。その日の夜悪寒が出現，22時には体温 39.0°C まで上昇。白血球 11,000/ μ l，CRP 0.97mg/dl。静脈血培養施行後抗生剤が投与され翌日解熱。血液培養で大腸菌が検出。菌血症の原因として腎盂腎炎が疑われた。day

8の4°C保存の自己血バッグのセグメントの血液培養で大腸菌が検出，抗生剤感受性は静脈血の大腸菌と一致。自己血バッグの外観に異常はなし (図)。day 35の自己血バッグ本体の血液から大腸菌は検出されず。自己血へ細菌混入の可能性があり¹⁾，軽微な体温変化等感染症が顕在化する直前に採血された場合，外観に異常がなくともその可能性に十分に留意する。

著者のCOI開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし

文献：1) 田野口優子，比嘉初子，山根誠久，他：貯血式自己血輸血製剤の採取に伴う細菌汚染の評価。日本輸血細胞治療学会誌，56：354—358, 2010.

〔受付日：2014年7月15日，受理日：2014年8月11日〕

BACTERIAL CONTAMINATION OF AUTOLOGOUS BLOOD

Koji Kishino, Tomomi Takase and Kazuo Muroi

Division of Cell Transplantation and Transfusion, Jichi Medical University Hospital

Keywords:

Autologous blood, Bacterial contamination

©2014 The Japan Society of Transfusion Medicine and Cell Therapy

Journal Web Site: <http://www.jstmct.or.jp/jstmct/>